

2016 年度 第 1 回 鋼構造運営委員会 議事録

1. 日時 平成 28 年 6 月 6 日(月) 13 時 00 分～16 時 30 分
2. 場所 建築会館
3. 出席者 多田元英, 五十嵐規矩夫, 一戸康生, 井戸田秀樹, 岡崎太一郎,
(敬称略) 岡本哲美, 兼光知己, 木村祥裕, 澤本佳和, 下川弘海(オブザーバー),
田川泰久, 竹内 徹, 田中 剛, 寺田岳彦, 中込忠男, 成原弘之,
原田幸博, 平島岳夫, 増田浩志, 緑川光正, 見波 進, 宇佐美徹(記録)
欠席:稲岡真也, 越智健之, 笠井和彦, 向野聡彦, 吹田啓一郎, 津田恵吾,
西山 功

4. 配付資料

- 01-00 鋼構造運営委員会委員名簿(多田主査)
- 01-01 2016 年度第 1 回鋼構造運営委員会議事予定(多田主査)
- 01-02 2015 年度第 5 回鋼構造運営委員会議事録(案)(宇佐美)
- 01-03 構造本委員会の動き(多田主査)
- 01-03a 各種アンカーボルト設計 WG(多田主査)
- 01-04 鋼構造座屈小委員会(井戸田幹事)
- 01-04a 座屈設計指針改定原稿(井戸田幹事)
- 01-05 鋼構造接合小委員会(増田委員)
- 01-06 鋼構造耐火設計小委員会(平島委員)
- 01-07 鋼構造環境小委員会(兼光委員)
- 01-08 鋼構造素材小委員会(見波委員)
- 01-09 鋼構造塑性設計小委員会(五十嵐委員)
- 01-10 鋼構造関連規準・指針の英文化小委員会(岡崎委員)
- 01-11 鋼構造関連規準改定小委員会(田川委員)
- 01-12 2016 年度大会 PD(平島委員)
- 01-13 AIJ 鋼構造 PD 主題一覧(多田主査)
- 01-14 鋼構造素材小委員会 2015 年度のまとめ(見波委員)
- 01-15 質疑回答の一覧(井戸田幹事)
- 01-16 鋼構造関連の規準・指針の英文名称の統一(多田主査)
- 01-17a-e 熊本地震関連資料(多田主査, 井戸田幹事)

5. 議事内容

- (1) 資料 01-00 に基づき 2016 年度委員名簿の確認を行った。稲岡委員の解嘱および下川委員の委嘱が承認された。次回構造本委員会で附議する。
- (2) 資料 01-02 に基づき宇佐美より前回議事録の報告をして承認された。
- (3) 資料 01-03 に基づき多田主査より構造本委員会の動きについて説明がなされた。
- ・ 本委員会査読委員
鋼構造柱脚設計施工ガイドブック：小林先生（福井大），宮本裕司先生（阪大）
鋼構造耐火設計指針：五十田先生（京大），甲斐先生（高知工大）

- 鋼構造座屈設計指針:植松先生(東北大),佐藤先生(日大)
- ・ 2016 年度開始特別研究委員会・[若手奨励]特別研究委員会テーマ選考結果について報告がなされた。
 - ・ 本会論文等電子データ公開は, CiNii 終了に伴い, J-Stage に移行する。
 - ・ 『東日本大震災合同調査報告』刊行状況について報告がなされた。
 - ・ 大会若手優秀発表賞については, 2016 年度は見送ることとする。
 - ・ 『鋼構造座屈設計指針』の刊行企画書, 『現場溶接による梁端混用接合部の構造性能と設計・施工』のシンポジウム実施計画書, 『鋼構造耐火設計指針の次回改定に向けての新提案』のシンポジウム実施報告の紹介がなされた。
 - ・ 鋼構造柱脚 WG への古谷委員(フケタ設計)の委嘱が承認。
- (4) 資料 01-03a に基づき多田主査より各種アンカーボルト設計 WG の設置に関して構造本委員会での議論の説明があり, 今後の対応について議論した。
- ・ 各種アンカーボルト設計 WG の設置申請は取り下げた。
 - ・ 各種アンカーボルトの設計指針・同解説を改定することに異論はない
 - ・ RC 構造に深く関わるので, WG メンバーに RC 構造運営委員会委員の追加の希望を中野先生, 塩原先生に伝える。
 - ・ 鋼構造の支承や柱脚におけるコーン状破壊や側方破壊など, 鋼構造も深く関係しているため田川委員に入ってもらおう。
 - ・ 鋼コンクリート合成構造運営委員会倉本主査から, WG 委員を推薦してもらった。
 - ・ 出版主体の運営委員会がどこなのかはこだわらない。
- (5) 資料 01-04~01-11 に基づき各担当委員より小委員会の報告がなされた。
- 座屈小委員会(資料 01-04, 井戸田幹事)
- ・ 鋼構造運営委員会への査読を増田委員, 岡本委員に依頼した。
 - ・ 今後, 鋼構造運営委員会査読期限 7 月末, 構造本委員会査読依頼 9 月初, 構造本委員会査読期限 10 月末, 脱稿 12 月, 刊行 2017 年 6 月の予定である。
- 接合小委員会(資料 01-05, 増田委員)
- ・ 柱脚設計施工ガイドブックは運営委員会査読が終了し, 査読回答について査読者の了承を得た。構造本委員会査読へ進む。
 - ・ 露出柱脚ベースプレートは, 設計者判断で B, C 材を使い分けている。回答は原案のとおり C 材とする。
 - ・ 梁端混用接合 WG シンポジウム(9/21 開催)の原稿は 6 月中旬を目処に取りまとめる。
- 耐火設計小委員会(資料 01-06, 平島委員)
- ・ 鋼構造運営委員会の査読対応中で, 6 月中旬に査読委員に確認し, 7 月中旬に本委員会査読に移る予定。
 - ・ 査読意見として, 語句の統一(強度→強さ), 歪速度, 混用継手の取り扱い, 引張力作用下の記述等があり, 対応の説明がなされた。
 - ・ 頁数の削減と, 囲みと解説の書き分けについて要望が出された。
- 環境小委員会(資料 01-07, 兼光委員)
- ・ 本設材から仮設材へのリユース, グリーン工場認定について検討している。損傷に留意した設計については, ターゲットを絞って検討することにする。
- 素材小委員会(資料 01-08, 見波委員)
- ・ 刊行物出版に向けて検討している。

塑性設計小委員会(資料 01-9, 五十嵐委員)

- ・ 構造本委員会査読の対応中で、6 月中に回答を作成し、7 月の構造本委員会での承認を考えている。同時に講習会の立案を実施している。
- ・ 学会 HP にパブリックコメントを掲載した。

鋼構造関連規準・指針の英文化小委員会(資料 01-10, 岡崎委員)

- ・ S 規準の 2015 年度内の出版は出版業者と学会の関係で難しい状況であった。7 月の本委員会での承認を考えているが、査読委員の承認が得られていないので連絡を取る。
- ・ 鋼構造接合部設計指針の英訳は囲み部分で、100-150p になる。表現を変えた方が良いところは一覧にまとめ、変更したところはわかるようにする。

鋼構造規準改定小委員会(資料 01-11, 田川委員)

- ・ 修正は 50 項目ある。
 - ・ 隅肉溶接は前面と側面を取り扱うようにする。
 - ・ 伊藤委員の委嘱を承認。→次回構造本委員会の附議とする。
- (6) 資料 01-12 に基づき平島委員より 2016 年度大会 PD 予告原稿と資料作成申請書について説明がなされた。
- (7) 資料 01-13 に基づき 2017 年度大会 PD について議論がなされた。
- ・ 超高層の耐震改修・解体、歴史的建造物、長周期地震動等のキーワードが挙がり、議論された。
 - ・ 次回運営委員会に決定したいので案のある委員は用意することとなった。
- (8) 重点審議として資料 01-14 に基づき見波委員より素材小委員会の活動内容について説明がなされた。
- ・ 刊行物に大臣認定材を取り入れていくとしているが、複数社取得しなくても取り入れるのか。
→できる限り入れていきたい。
 - ・ C 材のデータは充実できそうか。
→C 材については、ダイアフラム等板厚方向に大きな応力を受ける部位への使用等の留意点を述べる予定である。B 材と比較できるデータは難しいと思われる。
 - ・ 鋳鉄検討 WG の成果は何になりそうか。
→新しい素材としての球状黒鉛鋳鉄の特性と実例をまとめ実用化に向けた基礎資料とする。素材小委員会の刊行物の一部として掲載する予定である。
 - ・ 鋳鉄と鋳鋼の違いは。
→C の量が鋳鋼より多く、鋳鉄の方が鋳込みやすいが、溶接性が悪い。
- (9) 資料 01-15 に基づき井戸田幹事より、学会図書の質疑回答状況について確認がなされた。
- (10) 資料 01-16 に基づき多田主査より鋼構造関連規準指針の英文名称統一について説明がなされた。
- ・ タイトルの初めは”AIJ Recommendations”を付け、”Design”の前の定冠詞はつけない。
 - ・ ガイドブックも同様の取り扱いとする。
- (11) 資料 01-17 に基づき多田主査より、鋼構造分野に関する熊本地震の調査情報の集約について説明がなされた。
- ・ 新たな情報があれば、松尾先生(九大)に送り集約してもらう。

- ・ 5/14に学会で報告会があった。報告書は九州支部でまとめることになるであろう。

6. その他

- ・ 今後の重点審議は次の通り。
 - ◇ 2016年度第2回(7月)運営委員会:環境小委員会
 - ◇ 2016年度第3回(12月)運営委員会:なし
 - ◇ 2016年度第4回(3月)運営委員会:S規準改定小委員会
- ・ 次回の運営委員会の日時, 場所は以下の通り。
 - 第2回 2016年7月25日(月), 13:00-17:00, 於:建築会館